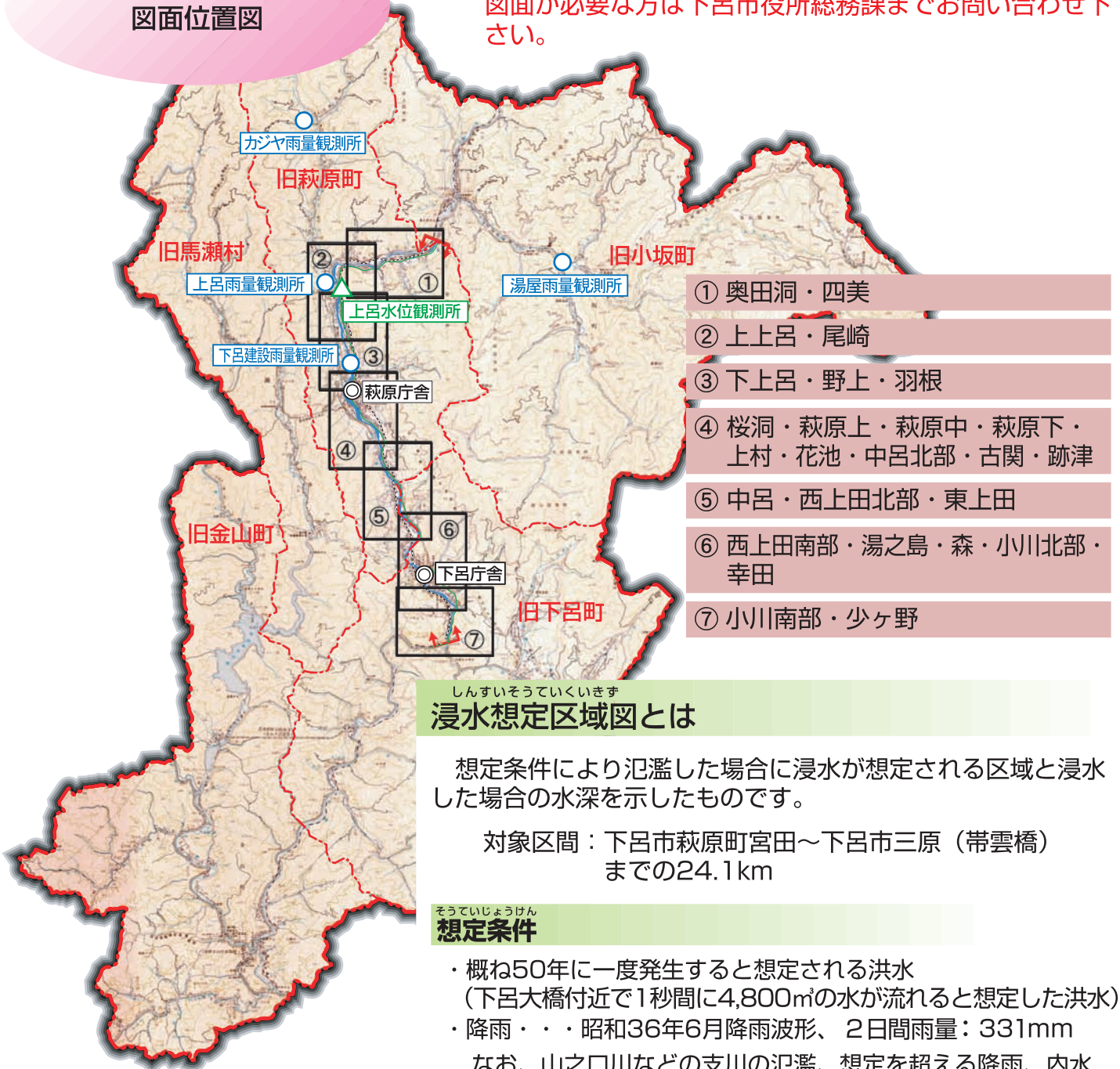


①洪水ハザードマップとは・・・

想定した条件により飛騨川が氾濫した場合、浸水の広がる範囲・深さをシミュレーションした「浸水想定区域図」に、避難場所などの避難情報を記載した、**安全な避難行動をとるために必要な地図**です。

飛騨川洪水ハザードマップ 図面位置図

自分の住んでいる地区の洪水ハザードマップが別紙で同封されています（①～⑦のいずれか一つ）。他の地区の図面が必要な方は下呂市役所総務課までお問い合わせ下さい。



しんすいそうていくいきす 浸水想定区域図とは

想定条件により氾濫した場合に浸水が想定される区域と浸水した場合の水深を示したものです。

対象区間：下呂市萩原町宮田～下呂市三原（帯雲橋）までの24.1km

そうていじょうけん 想定条件

- ・ 概ね50年に一度発生すると想定される洪水（下呂大橋付近で1秒間に4,800m³の水が流れると想定した洪水）
- ・ 降雨・・・昭和36年6月降雨波形、2日間雨量：331mm

なお、山之口川などの支川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫などは考慮していません。また、土石流や流木の影響による被害も想定していません。

ひだかわ ほんらんとくせい 飛騨川の氾濫特性

下呂市のような山間地における飛騨川沿いの平野部では、川が氾濫すると溢れた水の流れが速いため、避難する時に歩くことが難しいだけでなく、家屋が流されてしまう場合もあります。

また、水がつき始めてから最も水位が高くなるまでの時間が早いことや、概ね1日程度で水が退くという特徴があります。